内丸地区　街なみ環境整備方針

1．　内丸地区・本八戸駅通りの概要

2．　まちづくり方針

3．　景観形成のポイント

（1）　内丸地区全体の景観形成のポイント

（2）　本八戸駅通りの景観形成のポイント

4．　今後のまちづくりの進め方について

平成23年3月

八戸市

はじめに

「まち」は、「道」と「沿道」の２つで出来ています。
したがって、「よいまちをつくる」には、「よい道をつくること」と、「よい沿道をつくること」の両方が必要です。

八戸市は現在、本八戸駅通りを「よい道にしよう」と頑張っていますが、それはよい道をつくることによって「よいまちをつくる」という意図にほかなりません。

しかし、「道づくり」だけでは「よいまちづくり」は半分しか進まないわけで、内丸地区にお住まいのみなさんの、「沿道づくり」の頑張りにも期待がかかるところですし、「自分たちのまちを自分たちで良くする」、みなさんはできればそうしたいと願っていることと思います。

でも、どうでしょう。
良いまちをつくりたい、良い沿道にしたいと思っても、「では、どうしたらよいのか」、すぐアイデア、工夫が思い浮かぶでしょうか。
普段考えていないとなかなか思い浮かびませんよね。

そこで、「内丸地区街なみ環境整備方針」は、内丸地区を、誰もが住んでみたい、誰もが行ってみたい、人が大切にされ、楽しく、魅力的なまちにするために、「よいみちをつくり」、「よい沿道をつくる」、様々なアイデアを提案しようとしたものです。

子や孫や、これからここに住む人たちに、胸を張ってバトンタッチできるよいまちを自分たちでつくるために、みなさんが手を携えてまちづくりに取り組んでいただきたいと思いますが、本方針がその一助となることを願ってやみません。

みなさん、是非、まちづくりを頑張ってください。

平成23年2月

東京大学　アジア生物資源環境研究センター
教 授　堀 繁

１． 内丸地区・本八戸駅通りの概要

内丸地区の現状

八戸城跡を中心として拡がる内丸地区は、昔日の面影を残す街なみや、藩政時代からの歴史を彷彿とさせる歴史的資源が多く残る八戸の中心ともいえる地域となっています。多くのビルが建ち並ぶ中心市街地にありながら、緑豊かでゆとりと潤いの感じられる地域であり住宅地としての佇まいが多く残されています。

一方で、周囲の歩行空間は必ずしも整備が行き届いているとはいえず、歴史的資源の活用などの取り組みも十分とはいえない状況にあります。今後は、内丸地区の佇まいに配慮した公共施設の整備と共に、歴史的な重厚性や風格を感じられるような街なみを形成していくことが必要と考えられます。

本八戸駅通りの現状

内丸地区のメインストリートであり、また中心街への玄関口でもある本八戸駅通りは、“狭い・暗い・危ない”といった声が聞かれるようになってから久しく、かつて賑わいの中にあった沿道の店舗は年々減少し、現在はシャッター通り化しつつあります。

しかし、都市計画道路３・５・１号沼館三日町線の事業化により、この道路の完成後は、現在の本八戸駅通りの通過交通は大きく減少することになるので、歩行者を優先した歩いて楽しい通りを目指すことができます。

このことを好機と捉え、シャッターを開き、おもてなしの形を取り入れた沿道づくりを地域の皆さんが進めたときに、本八戸駅通りがすばらしい商店街になっていることを想像するのは難しいことではありません。

2. まちづくり方針

内丸地区全体では、下記を全体方針としてまちづくりをすすめることを提案します。

つながる、八戸

内丸地区は八戸市において最も格式の高い地区であり、受け継いだ歴史をつなぎ、次世代へと継承していく責任があります。

そのためには、住む人が誇りを持てるまちとして育てることが必要です。住む人によって歴史が受け継がれ、幸せなくらしがあり、人と人とのつながり・おもてなしがある風景がにじみ出るまちは、訪れる内外の人々をひきつけることができるはずです。

歴史をつなぎ、人をつなぎ、まちをつなぐ、そんな内丸地区をめざします。

次世代へ歴史・文化をつなぐ

・玄関口としての風格・佇まいを持たせます
・八戸城跡の伝統を持つ場所性を感じさせます

魅力的なくらしを通して、人をつなぐ

・沿道住民を中心とした日々の暮らしを支えます
・地区を訪れた来訪者をもてなします

まちとまち、まちと人をつなぐ

・隣接する駅やまちに連続性を与えます
・八戸市中心市街地における回遊性を誘発します

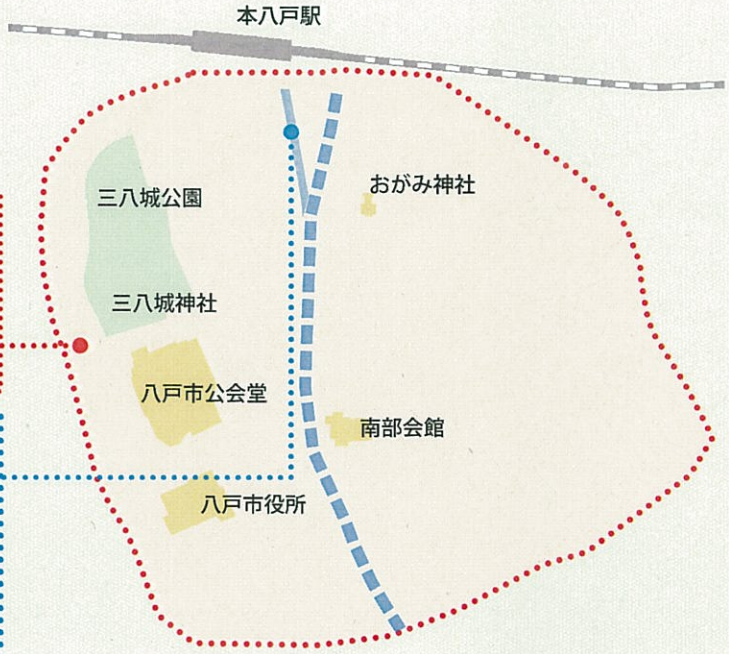
内丸地区では、まちづくり方針の下、次のようにエリアを分けて景観形成について検討を深めていきます。

内丸地区全体

商業地域ではあるものの、基本的には良好な住宅地の形成を目指します。用途の混在を許容しているため、地区にふさわしい施設の誘導が望まれます。

本八戸駅通り

八戸市中心市街地の玄関口にふさわしい街なみ、都心地区へ続く、歩いて楽しい通りを目指します。基本的には商店が立ち並ぶ賑わいのある通りの形成を目指します。



3． 景観形成のポイント

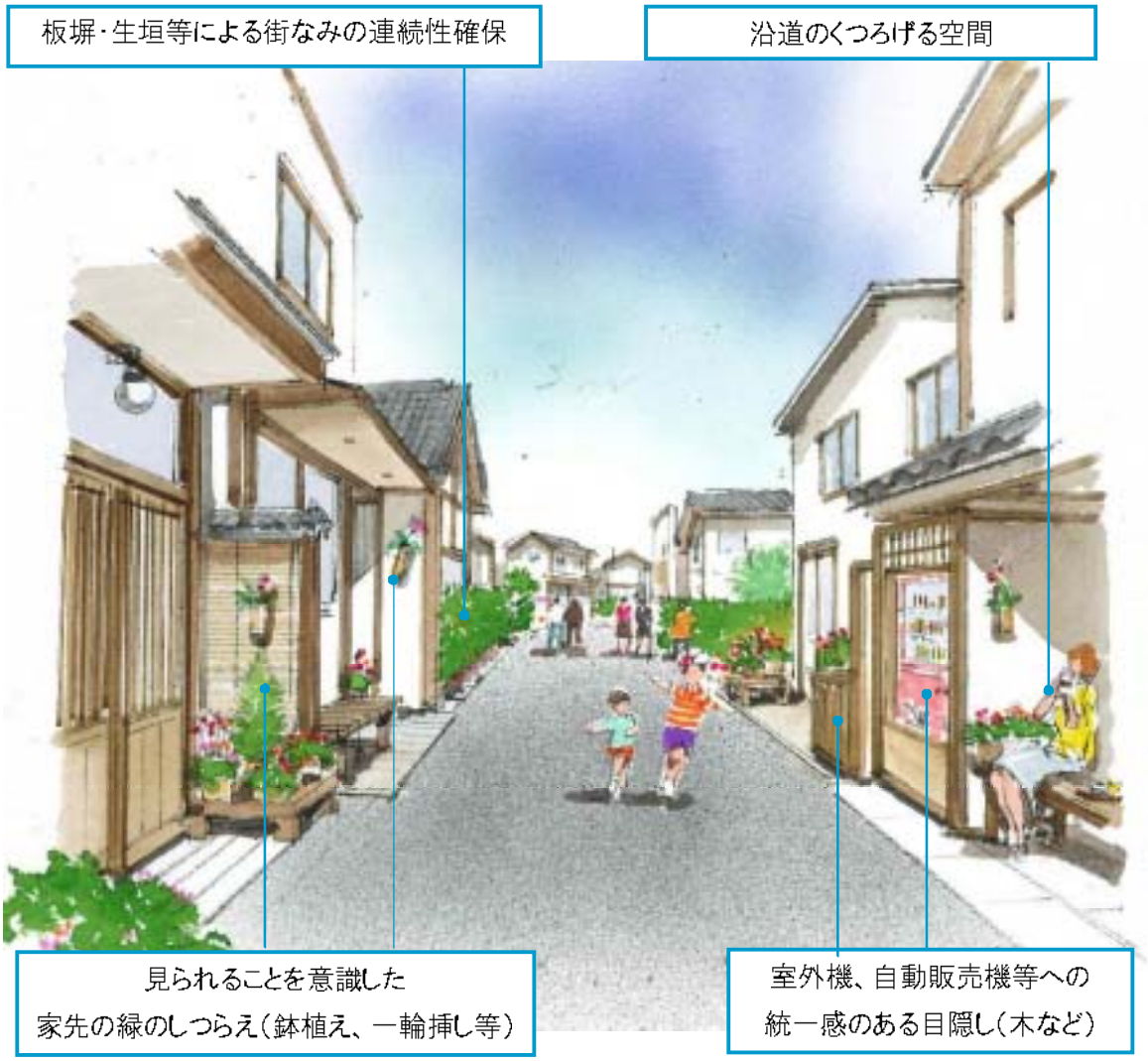
内丸地区では、前頁のまちづくり方針を基本として、以下のような景観形成を進めていくことで、八戸市の顔として歴史を感じられる地区のイメージを形成していくとともに、落ち着いた居住環境や賑わいのある通りの空間形成を進めたいと考えています。

（1）内丸地区全体の景観形成のポイント

内丸地区は住宅地としての土地利用が過半を占めますが、周辺には歴史資産が点存し、都心地区にも近接していることから、回遊性が高く歩いて楽しめる空間を目指します。

内丸地区については、誰でも簡単にできる工夫を基本としてまちづくりのルールをつくり、緑や自然の素材などを基調とした落ち着いた景観の形成に繋げていきたいと考えています。このような取り組みは、景観を向上させ、まちを繋ぐだけではなく、その土地において生活する人々を繋いでいくことになります。

一般的な居住地区における景観形成のイメージ

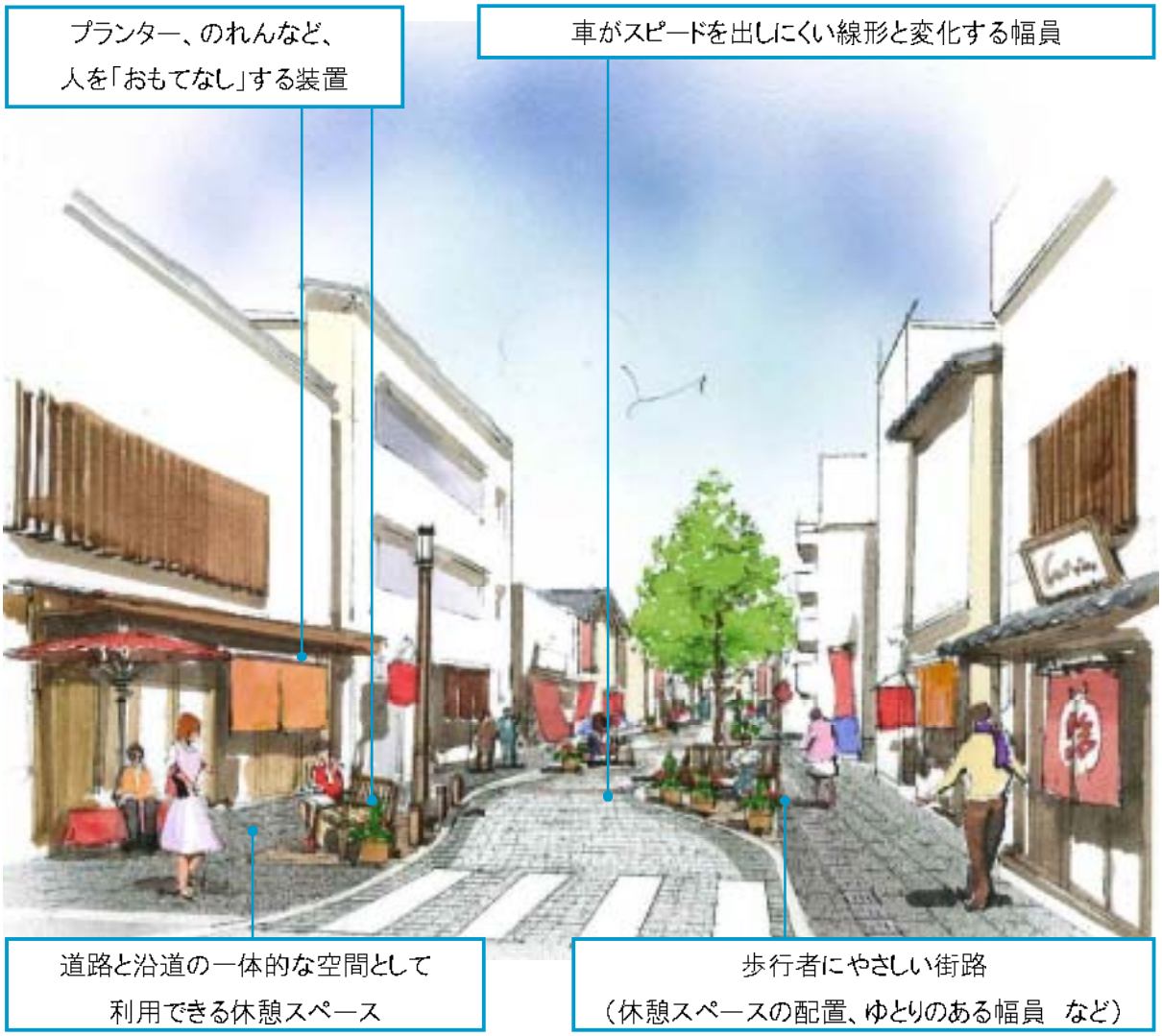


（2）本八戸駅通りの景観形成のポイント

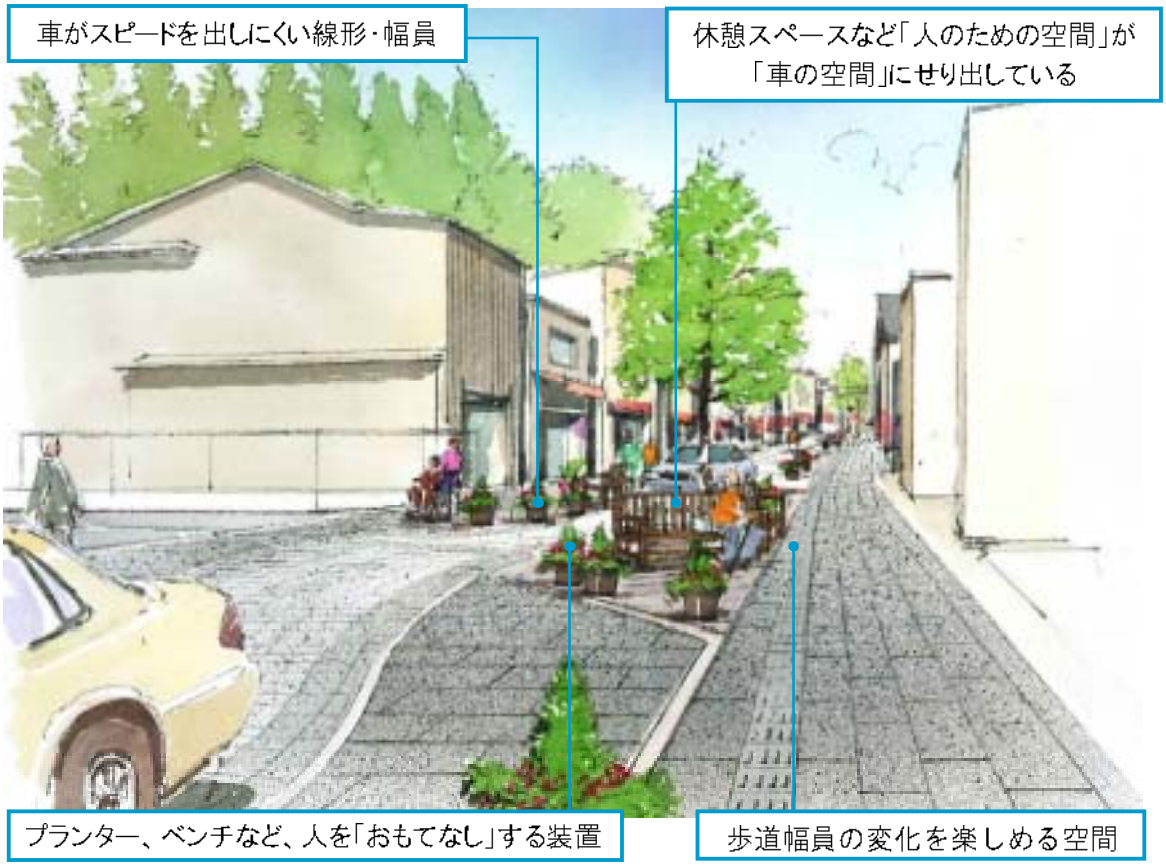
本八戸駅通りは内丸地区の顔であるとともに、八戸市の顔（玄関口）でもあります。特に本八戸駅から訪れる方々にとって内丸地区を印象付ける重要な箇所であることから、通りの景観形成が非常に重要といえます。道路事業に伴い沿道の建物の建替えも想定されることから、「道」と「沿道」のそれぞれを部分的・段階的に改善しながら、理想的な姿を創り出していきます。

具体的には、歩行者が歩きやすく賑わいを生み、車がスピードを出しにくい道と、日常的に歩いて楽しめる沿道空間を形成していきます。

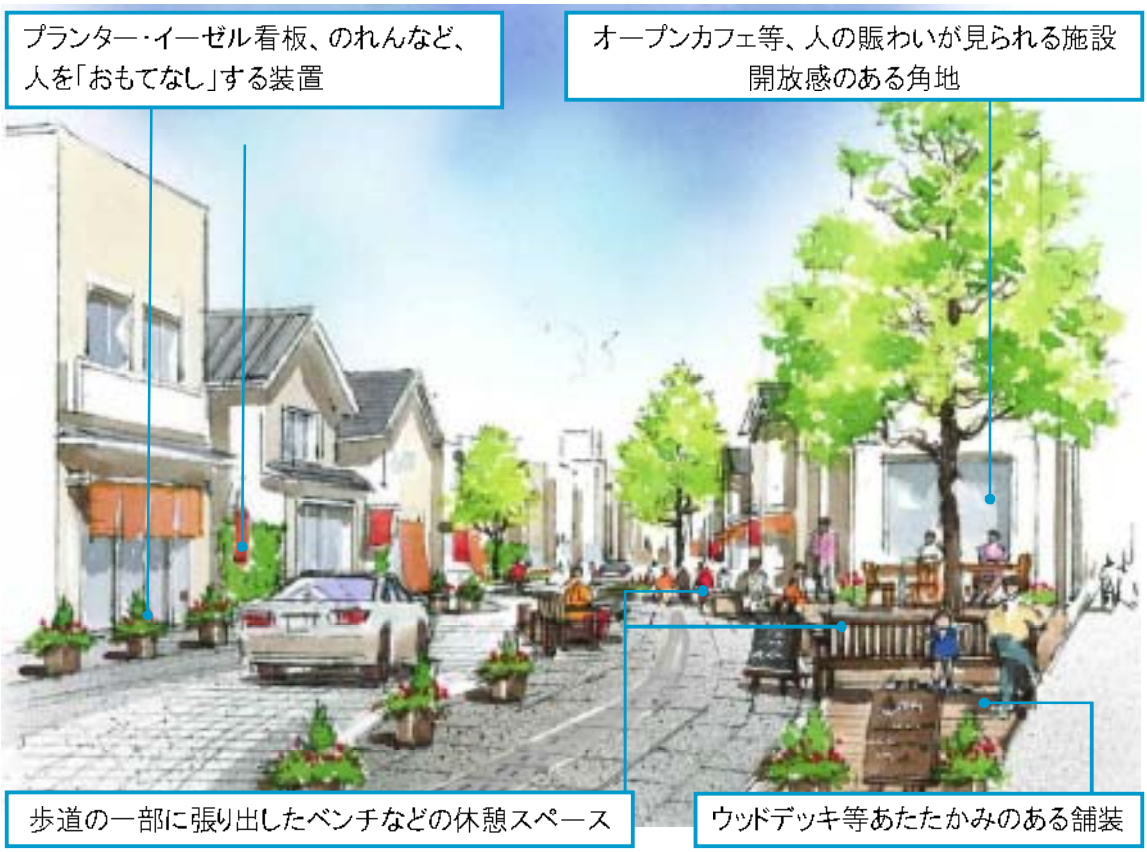
イメージ１：　「人のための道と沿道空間」の全体イメージ



イメージ２：車がスピードを出しにくく、歩行者に優しい道路空間

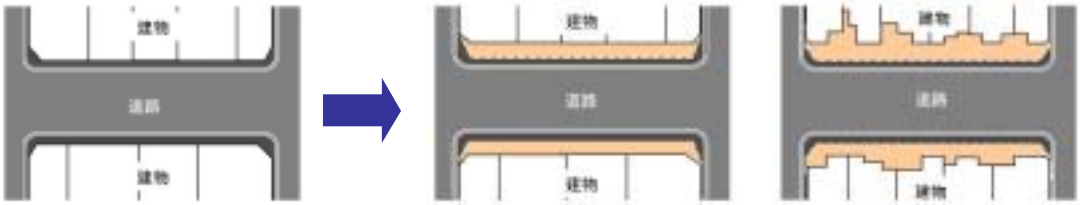


イメージ３：賑わいと開放感のある角地の空間



イメージ４：商店などの共同建替えによる、賑わいのある空間

建替え時の敷地利用ポイント

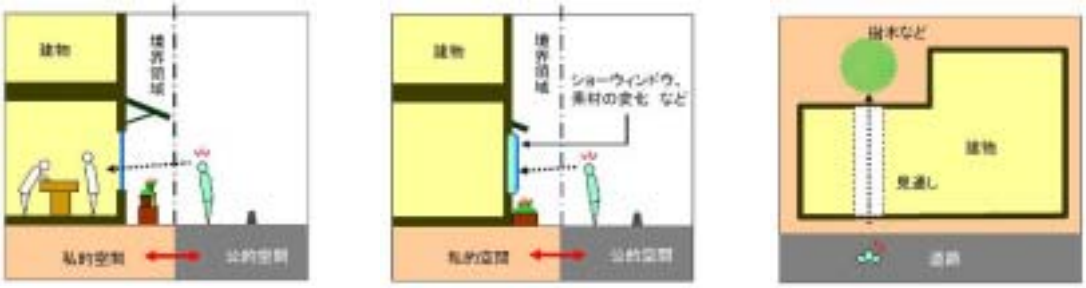


歩行者空間にゆとりがありません。

壁面後退により、歩行者空間にゆとりが生まれます。

壁面位置の変化により歩道と一体となって利用できる空間が生まれます。

沿道空間で配慮すべきポイント



人の活動が見えるオープンな境界領域を確保します。

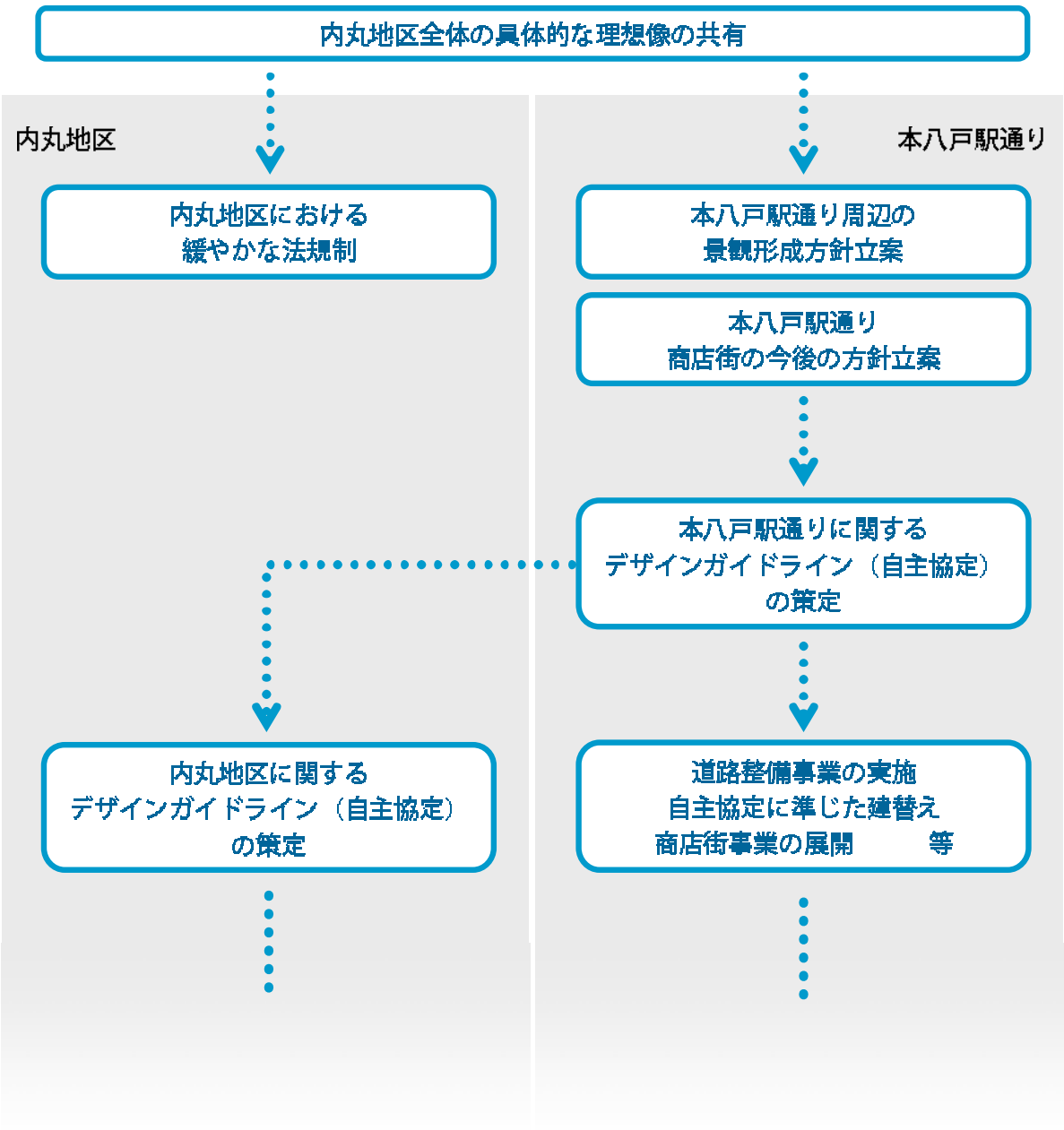
素材やプランターなどで変化をつけて単調さを避けます。

敷地内への見通しを確保します。

4． 今後のまちづくりの進め方について

この「街なみ環境整備方針」は、これまで地域で行った寄り合い（まちづくりワークショップ）などの経緯、そこでいただいた意見等を踏まえ、東京大学の堀繁教授監修の元、住民有志の方々や八戸市が中心となって作成したものです。今後は、本方針を基本としながら、より多くの方々の意見を取り入れ、内丸地区全体の将来像について共有を図り、詳細なルールづくりを行っていく予定です。

今後の進め方（八戸市からの提案）



内丸地区 街なみ環境整備方針　　平成23年3月

監　　修　東京大学アジア生物資源環境研究センター 教授 堀 繁
編集 ・ 発行　八戸市 まちづくり文化観光部 まちづくり文化推進室
青森県八戸市内丸一丁目１－１　℡0178-43-2111
調査・編集協力　株式会社 オリエンタルコンサルタンツ